

当社独自技術「Frame Adapt HDR」がさらに進化、高画質化技術の強化を実現

D-ILA プロジェクター「DLA-V900R」「DLA-V800R」向け HDR 機能をアップグレード

～コントラスト感と色彩表現を向上させる新画質モード「Frame Adapt HDR ビビッド」などを追加～

株式会社JVCケンウッドは、Victorブランドより発売中の8K映像表示対応D-ILAプロジェクター「DLA-V900R」「DLA-V800R」に対応する最新ファームウェアを10月中旬より公開します。

今回のファームウェアによるバージョンアップでは、HDR 映像の表現力を高める画質モード「Frame Adapt HDR ビビッド」や高輝度シーンを美しく表現する「Highlight Color Control」機能、およびゲームなどに最適な低遅延モードに自動的に切り替わる「ALLM（Auto Low Latency Mode）」などの新たな機能を追加します。



<企画意図>

D-ILA プロジェクターに搭載する当社独自の「Frame Adapt HDR」機能は、コンテンツのシーンごと、あるいはフレームごとに異なるピーク輝度を瞬時に解析し、最適なダイナミックレンジに自動調整することで、HDR10 コンテンツをより自然でリアルな映像として再現するとともに、マスタリング情報の有無にかかわらず幅広い HDR10 コンテンツに対応できます。多くのユーザーからも高い評価を得ており、これまで機能のブラッシュアップを重ねてきました。

今回のファームウェアアップデートで新たに追加した画質モード「Frame Adapt HDR ビビッド」は、明部はより明るく、暗部は階調をより深く沈ませて映像全体のコントラスト感を向上させるとともに、「Highlight Color Control」機能により、各画質モードに対して高輝度シーンにおけるハイライト部分の輝度感と彩度のバランスを最適化し、より立体感を際立たせながら、細部まで明るく鮮やかな映像表現を実現します。また、当社独自の高画質映像処理技術「Multiple Pixel Control（MPC）」を強化し、ナチュラルな高精細感を維持しながら、より滑らかでリアルな 8K 映像表現も可能にしました。さらに、「低遅延モード」に自動で切り替わる「ALLM（Auto Low Latency Mode）」機能も追加し、反応速度などが重要なゲームなど低遅延が求められるコンテンツにも対応させました。

<ファームウェアアップデートの主な内容>

1. 新画質モード「Frame Adapt HDR ビビッド」の追加により、コントラスト感と色彩表現がさらに向上

当社独自の「Frame Adapt HDR」機能に、新たな画質モード「Frame Adapt HDR ビビッド」を追加。PQ カーブをベースに、長年にわたる HDR 画質の開発を通じて培ってきた独自の映像処理技術を生かし、明部はより明るく、暗部は階調をより深く沈め、映像全体のコントラスト感と色彩表現をさらに向上させています。本モードにより、被写体が背景から自然に際立ち、立体感のある HDR 映像を実現します。

2. 新機能「Highlight Color Control」の追加により、高輝度シーンも細部まで鮮やかな映像を実現

「Frame Adapt HDR」の各画質モード（全 3 モード）に対して、高輝度シーンにおける彩度の調整が可能となる新機能「Highlight Color Control」を追加しました。色が抜けがちな高輝度シーンのハイライト部分において、輝度感と彩度のバランスを最適化することにより、細部まで明るく、鮮やかで、メリハリのある映像表現を実現。夜景や SF 映画などの明暗が混在するコントラストの高いシーンにおいても、奥行きとリアリティを備えた HDR 映像が楽しめます。

3. 高画質映像処理技術「Multiple Pixel Control (MPC)」を強化、より滑らかでリアルな 8K 高精細映像を実現

フル HD や 4K 映像を高精細な 8K 映像に変換する、当社独自の高画質映像処理技術「Multiple Pixel Control (MPC)」のスタンダードモードを大幅に見直すことで、より自然でリアルな画作りを実現しました。さらに、新機能「スモザー」の追加により、データ圧縮などによって生じるバンディングノイズを効果的に抑制。ナチュラルな高精細感を維持したまま、より滑らかでリアルな 8K 映像を実現します。

4. コンテンツに応じて低遅延モードに自動で切り替わる「ALLM (Auto Low Latency Mode)」機能を追加

ゲームなどの低遅延が求められるコンテンツに最適な「ALLM (Auto Low Latency Mode)」を新たに追加しました。ALLM 対応のゲーム機や PC と接続することで、映像信号をもとにプロジェクターが自動的に低遅延モードへ切り替わり※1、よりスムーズで快適な操作性を実現します。

※1：ALLM 動作時は、快適な操作性を実現するため、「Frame Adapt HDR」「レーザーダイナミックコントロール」「Clear Motion Drive」などの一部機能は自動的に OFF になります。

5. その他のアップデート

1) OSD メニューの視認性と操作性を向上

OSD（オンスクリーンディスプレイ）のメニューに、各設定項目の役割や効果を画面上に分かりやすく表示するガイド機能を追加。初めての方でも、画質モードや HDR 設定、カラー設定などの高度で細かい調整をガイドで各設定の内容を確認しながら行うことができます。

また、OSD メニューの視認性と操作性を向上させるため、OSD 表示時の明るさをレーザー光源の動作に連動させる「OSD 明るさ連動モード」と、暗い映像や HDR コンテンツの再生時でもメニューが見やすい背景色をブラックにする「OSD ダークモード」も追加。視認性を向上させスムーズな調整を可能にしました。

2) キャリブレーション性能を強化し、より高精度な映像調整が可能

キャリブレーション精度をさらに高める「Calibrator モード」を追加。従来モデルで搭載していた「オートキャリブレーション機能※2」は全体の最適化を行っていたのに対し、本モードはユーザーが任意で設定した値（ガンマ／色域／色温度など）をターゲットとするため、インストーラーや専門家が行うキャリブレーションのような高精度な映像調整が可能となります。さらに、最新世代の光学センサー（市販）に対応させることで、測定精度と操作性の向上も図っています。

※2：「オートキャリブレーション機能」を使用するには、市販の光学センサーと専用ソフトウェア、PC、LAN ケーブルが必要です。

3) リモコンの「ADVANCED キー」から、映像モードや画質調整項目のカスタム設定メニューを呼び出し可能

リモコンの「ADVANCED キー」に、ユーザー自身でカスタム設定メニューを割り当て、ワンタッチで呼び出すことを可能にしました。操作性の向上とともに、視聴環境やコンテンツに応じた柔軟な映像調整を可能にします。

<ファームウェアアップデートの概要>

- ・ファームウェア公開時期 : 2025 年 10 月中旬
- ・対 象 商 品 : 8K 映像表示対応 D-ILA プロジェクター「DLA-V900R」「DLA-V800R」
- ・内 容 : 対象商品のアップデート用ファームウェアを当社 [Web サポートサイト](#)にて公開（無償）

<商標について>

- ・「D-ILA」「Frame Adapt HDR」「Clear Motion Drive」は株式会社 JVC ケンウッドの商標または登録商標です。
- ・その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

本資料の内容は発表時のものです。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。